

トラック輸送情報（平成24年2月分）

平成24年5月10日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報政策課 交通統計室

担当：中倉 内線28721

直通：03-5253-8347

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

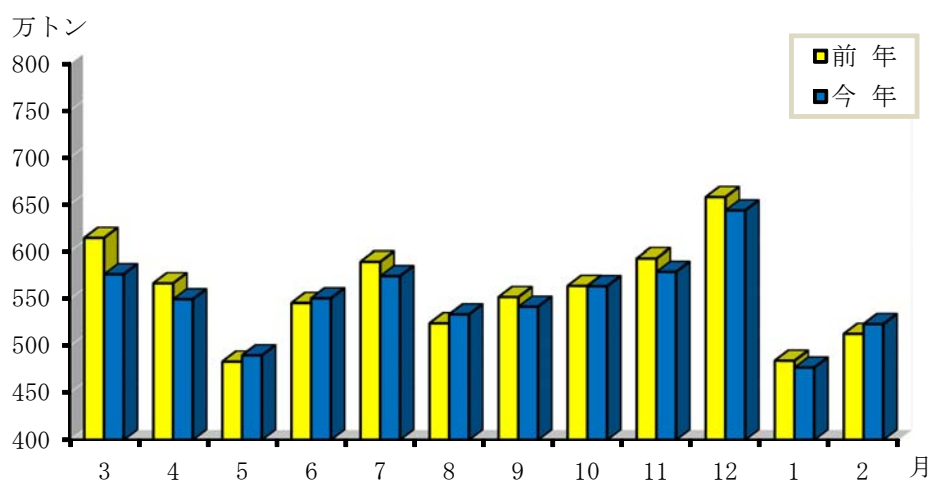
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

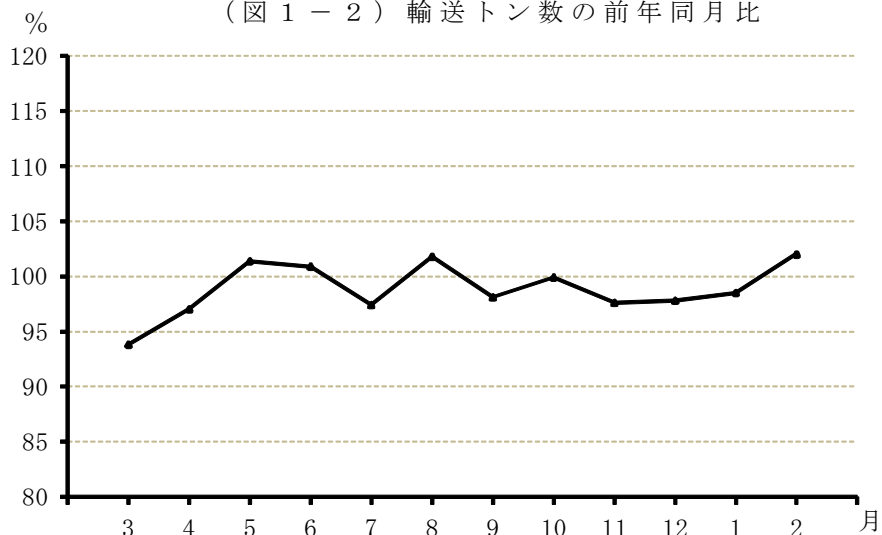
調査対象26社の本月の輸送量は、5,235,753トンで、前月と比べ総輸送量が約46万トン増加したため、前月比109.7%（季節調整済み100.5%）となり、前年同月との比較では、約10万トン増加したため、前年同月比102.0%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は23.6日で、前月と比べ2.0日増加し、前年同月との比較では、1.1日増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、221,854トンで、前月と比べ約1千トン増加したため、前月比100.4%となり、前年同月との比較では、約6千トン減少したため、前年同月比97.3%の実績であった。

（図1-1）輸送トン数の推移



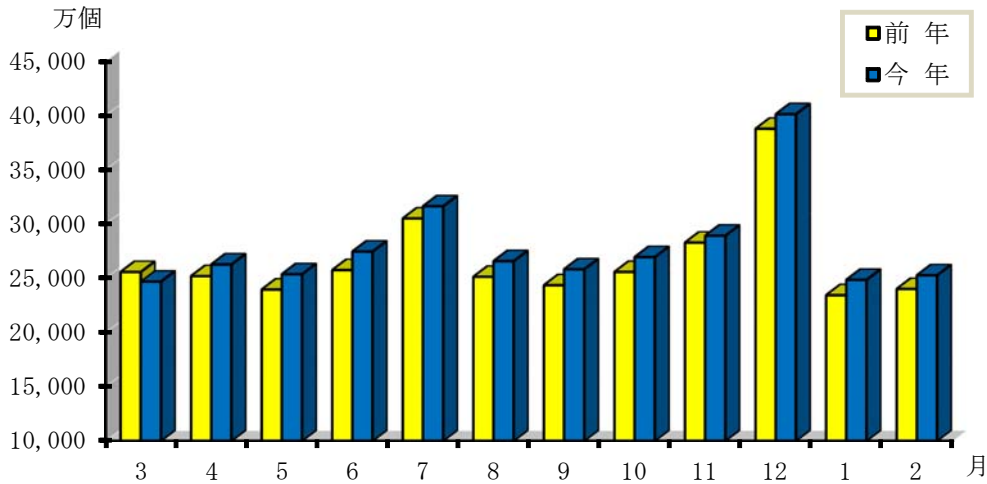
（図1-2）輸送トン数の前年同月比



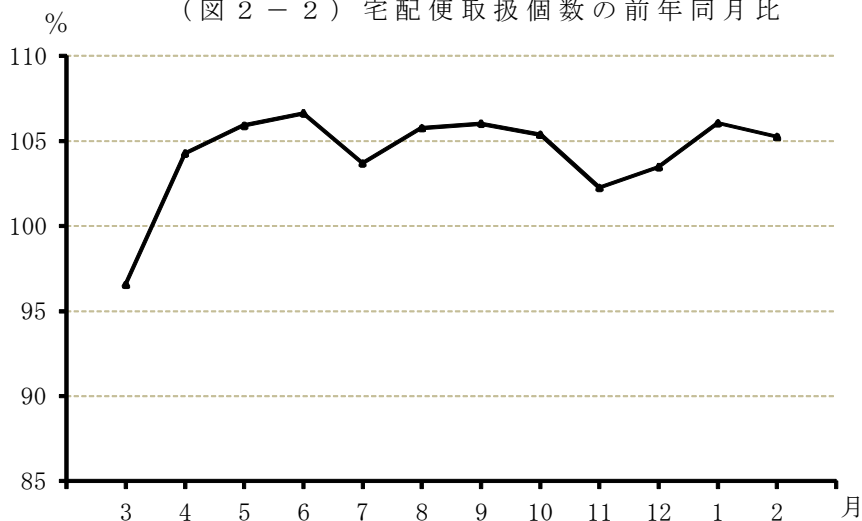
(2) 宅配便の概況

調査対象 17 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、252,829 千個で、前月と比べ 約 418 万個増加したため、前月比 101.7% (季節調整済み 93.9%) となり、前年同月との比較では、約 1,258 万個増加したため、前年同月比 105.2% の実績であった。(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社(26 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、すべての品目で、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増がすべて品目に共通して見られたほか、倉庫から出る貨物増が「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」で見られた。「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」の主な増加地域は関東地方、中部地方、近畿地方等であった。

前年同月と比べると、工場・生産地や倉庫からの貨物増等により「農水産品」、「金属製品」、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者が関東、北陸信越、中部地方、近畿地方等であった。一方で、「その他(百貨店配送品)」の輸送量が全国で減少したと回答する事業者があった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 ら ず	減	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	4	12		野菜		4
	金属製品	1	5	14	1		関東、北陸信越、中部地方、兵庫	4
	機 械	1	11	9		電気機械、機械部品	関東地方、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7, 8
	化学工業品	1	12	9		合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 8
	繊維工業品		6	15	1		中部	4
	食料工業品	2	7	10	1	製造食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 5, 7
	日 用 品		14	7	1	書籍・印刷物、衣服、その他の日用品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国、九州、全国	4, 5, 7, 8
	そ の 他	2	8	10	1	宅配便	中国、全国	4
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	4	12	1	果物	中国	4
	金属製品		6	14			関東、北陸信越、中部、兵庫、近畿	4, 7
	機 械	1	8	10	1	機械部品	神奈川、関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品		6	14	2	その他の化学工業品	神奈川	7
	繊維工業品		4	15	3	その他の繊維工業品	北陸信越、中部、兵庫、近畿	7
	食料工業品		4	14	2		中国	
	日 用 品	1	6	10	4	衣服	中国 関東、全国	5
	そ の 他		4	12	4	その他(百貨店配送品)	全国	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 794 社／調査対象事業者数 1,042 社）の輸送量は、前月比 105.9%、前年同月比 102.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.4 %	100.6 %	105.9 %	101.4 %	103.8 %	104.8 %	97.7 %	101.2 %	101.0 %	104.4 %	101.9 %	
前 月 比	105.9 %	101.5 %	108.4 %	105.7 %	109.1 %	105.7 %	107.4 %	110.0 %	106.6 %	108.4 %	99.9 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比101.5%、対前年同月比100.6%であった。品目別では、季節的需要増等により「廃棄物」、「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増等により「化学肥料」、「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要減等により「野菜・果物」、「その他農産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比108.4%、対前年同月比105.9%であった。品目別では、天候による影響等により「その他の石油製品」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」が、商社・問屋からの貨物増等により「穀物」が、ガレキ撤去・建築資材の動きが活発なこと等により「木材」、「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比105.7%、対前年同月比101.4%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、工場・生産地からの貨物増等により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降については減少傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比109.1%、対前年同月比103.8%であった。品目別では、季節的需要増等により「その他の化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比105.7%、対前年同月比104.8%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比107.4%、対前年同月比97.7%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増等により「機械」が、季節的需要増等により「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「その他の窯業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比110.0%、対前年同月比101.2%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」が、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「機械」が、工場・生産地からの貨物増等により「鉄鋼」が、季節的需要増等により「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「畜産品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降については減少傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比106.6%、対前年同月比101.0%であった。品目別では、季節的需要増等により「野菜・果物」、「揮発油」、「その他の石油製品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、工場・生産地からの貨物増等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「非鉄金属」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比108.4%、対前年同月比104.4%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「セメント」が、工場・生産地からの需要増等により「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「その他の化学工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比99.9%、対前年同月比101.9%であった。品目別では、建設関連の需要増等により「機械」が、季節的需要増により「穀物」、「その他の農産品」が、商社・問屋からの貨物増により「紙・パルプ」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、輸出入貨物の減により「金属くず」、「その他のくずもの」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	北	東	陸	信	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増			3			1			2	1	1	1	9
	減													
2. 野菜・果物	増						1		1		7	3		12
	減	4	1								1	1		7
3. その他の農産品	増									1	3		1	5
	減	3								1	2			6
4. 畜産品	増													
	減									1	1			2
5. 水産品	増					1								1
	減	1	1			1	1							4
6. 木材	増	1	3							1	1	1		7
	減	2				2							1	5
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増	1												1
	減													
9. 金属鉱物	増					1						1		2
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	1	3							4	2	1		11
	減	8								2	1	2		13
11. 工業用非金属鉱物	増	1	2			1				1	3			8
	減	1									1	1		3
12. 鉄鋼	増	1			1	1				3	4	4		14
	減					1				1	1	1		4
13. 非鉄金属	増			1	1					1	2			5
	減									1				1
14. 金属製品	増			2					2	1	1	1		7
	減	1	1							1	1	1		5
15. 機械	増	1	3					2	4	3	3	2	2	20
	減		1	1	1						4			7
16. セメント	増			2		1				3	2	7		15
	減	3	2											5
17. その他の窯業品	増	1	1							1		1		4
	減	1						1	1			1		4

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増		1	2					3			6
	減											
19.その他の石油製品	増	4	4		3		1	1	3			16
	減	2										2
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増	1	1						2			4
	減											
22.化 学 肥 料	増	2	1							1		4
	減							1		1		2
23.その他の化学工業品	増	1			2				1			4
	減							1		1		2
24.紙 ・ パ ル プ	増	2			1	1	1	1	3	1	1	11
	減		1		1		1	1	1			5
25.織 維 工 業 品	増				1							1
	減											
26.食 料 工 業 品	増	1	4	2	4		1	2		2		16
	減	2	2	1	2		1	2		2		12
27.日 用 品	増	2	1	1	1		1	2	3	2	1	14
	減	1						1		1		3
28.その他の製造工業品	増		1							1	1	3
	減		1	1	2			1				5
29.金 属 く ず	増									1		1
	減										1	1
30.その他のくずもの	増							1				1
	減									1	1	2
31.動植物性飼・肥料	増	2	2							2		6
	減	1	1	1					1	1		5
32.廃 棄 物	増	12	3							2		17
	減	2	1									3
33.輸 送 用 容 器	増								2	1		3
	減							1				1
34.取 り 合 せ 品	増	1	2				1	2		1		7
	減		1					1			1	3
35.そ の 他	増	1	4	1	3	2	5	8	3	2		29
	減		1	1	3		2	1		1		9